

令和 5 年度
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
業務実績等報告書概要

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

第四期中期計画のミッション

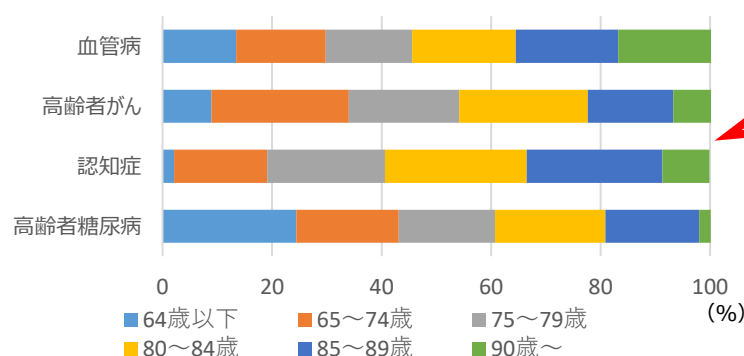
（計画期間：令和5年度から5年間）

- ①早期からの「予防し、治し支える医療」を「高齢者医療モデル」として確立・普及
- ②新興・再興感染症を踏まえた感染症対策や、多様化する災害に備え災害医療の取組を強化
- ③自然科学的な研究並びに疫学調査や社会調査などによる社会科学的研究を推進
- ④病院と研究所が一体となり、健康づくりに関する研究プロジェクトの取組を推進
- ⑤各種取組の成果について、様々な媒体を活用した積極的な広報を行い、都民への普及・還元を図る
- ⑥DXの推進により業務の効率化を図るなど、一層の経営基盤強化を図る

令和5年度の業務実績等

～第四期中期計画の初年度の年度計画を概ね達成することができました～

【センターの特徴】①四大重点医療に係る患者の年齢別割合



全ての疾患で65歳以上の割合が約7割、80歳以上の割合は約4割を占める

（※）血管病、高齢者がん、高齢者糖尿病については、DPCデータに基づき、それぞれの対象となる入院患者の割合。認知症については、もの忘れ外来を受診した患者の割合

②入院患者の担送・護送・独歩割合

種別	割合	定義
担送	41.5%	ストレッチャーなどを使用して、2人の介助者が必要
護送	39.4%	車椅子などを使用して、1人の介助者が必要
独歩	19.1%	自力で歩ける、介助者なし

介助の度合いが高い患者の割合が約8割である

こうした状況にも適切に対応し、都の高齢者医療及び研究の拠点としての取組を加速

→ 年度計画を概ね達成するとともに、第四期中期計画の達成に向けた取組を進めることができました。

自己評価結果

事 項	項目数	S	A	B	C	D
高齢者の健康長寿を支える医療の提供・普及	10	2	2	6	0	0
高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究	4	2	2	0	0	0
法人の資源を活用した政策課題への対応	2	0	2	0	0	0
高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成	1	0	1	0	0	0
業務内容の改善及び効率化	2	0	0	2	0	0
財務内容の改善等	2	0	0	2	0	0
合 計	21	4	7	10	0	0

【評価S・Aの主な項目】

【病院部門】

- ・四大重点医療（血管病、高齢者がん、認知症）への取組（S、A）
- ・災害・感染症等の緊急事態への対応（S）
- ・安全で質の高い医療の提供（A）

【研究部門】

- ・高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究（S）
- ・高齢者の地域での生活を支える研究（A）
- ・老年学研究におけるリーダーシップの発揮（S）
- ・研究成果の社会への還元（A）
- ・介護予防・フレイル予防の取組（A）
- ・認知症との共生・予防の取組（A）

【経営部門】

- ・高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成（A）

1. 健康長寿を阻害する疾患等に対する高齢者医療の提供

○病院部門においては、**四大重点医療**や高齢者の特性に配慮した医療を提供するなど、**フレイルに配慮した、患者が安心できる医療提供体制**を構築

①血管病医療 **評価A**

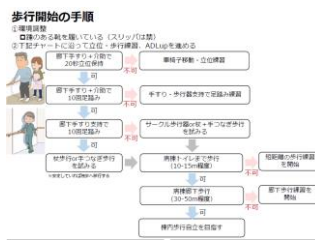
地域の急性期患者を積極的に受け入れ、高齢者に最適な治療を提供

【主な取組】

- ・SCU病床を増床（**6床→9床**）し、脳卒中救急患者等を積極的に受入れ
- ・経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI/TAVR）**23**件（令和4年度 24件）
- ・補助循環用ポンプカテーテル（IMPELLA）**3**件（令和4年度 3件）
- ・脳動脈瘤コイル塞栓術 **10**件（令和4年度 16件）
- ・頸動脈ステント留置術 **12**件（令和4年度 14件）
- ・『高齢者のための心不全管理手帳』を作成して臨床応用、患者管理、地域連携を開始するとともに、普及に向けた講演会を開催
- ・入院関連機能障害（HAD）の予防のための離床フローチャートを作成し、一部病棟にて運用を開始



【心不全管理手帳】
（当センター監修）



【離床フローチャート(一例)】

②高齢者がん医療 **評価A**

正確かつ低侵襲な検査・治療を一層推進するなど、**高齢者の状態に合わせた最適ながん医療を提供**

【主な取組】

- ・画像誘導放射線治療（IGRT）**123**例
- ・定位放射線治療 **3**例
- ・強度変調放射線治療（IMRT）件数 **9**例
- ・前立腺針生検法件数 **62**例
- ・肝胆膵高難度手術 **14**例（令和4年度 13例）
- ・NBI内視鏡検査（消化器がん）**1,014**例（令和4年度 563例）
- ・内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）**135**例（令和4年度 116例）
- ・内視鏡的粘膜切除術（EMR）**819**例（令和4年度 703例）
- ・内視鏡的逆行性胆道膵管造影術（ERCP）**241**例（令和4年度 272例）
- ・挟帯域光観察(NBI)を始めとする早期消化器癌発見のモダリティが増加し、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)や内視鏡的粘膜切除術(EMR)などの治療件数が大幅に増加
- ・各診療科と緩和ケア内科で連携を図り、患者の病状に応じて適切な緩和ケアを提供

③認知症医療 **評価S**

認知症未来社会創造センター（IRIDE）を中心に、医療と研究とを統合した取組を推進

【主な取組】

- ・アルツハイマー病にレカネマブが適応となり、当センターは全国に先駆けて投与を開始。それに合わせ、必要なアミロイドPETやMRI等の検査体制、患者・家族に対して効果、副作用について丁寧な説明を行い、意思決定やフォローアップ相談体制を整備
- ・もの忘れ外来において、**2,910**人を受け入れ、認知症の精査・原因診断と治療を実施（令和4年度 2,398人）



【レカネマブ投与開始
記者会見の様子】

④高齢者糖尿病医療 **評価B**

これまでの**知見を生かした専門医療を提供**するとともに、地域の医療機関等の対応力向上に貢献

【主な取組】

- ・糖尿病看護外来において、フットケア、療養相談、CGM、インスリンポンプに関する相談対応を実施（年間延べ患者数 1,197人）
- ・「東京都区西北部糖尿病医療連携推進検討会」基幹病院として、検討会を4回開催し、行政、医師会及び歯科医師会等と連携し、地域における糖尿病の重症化予防に関して情報共有
- ・「いたばし糖尿病多職種ネットワークの会」を2回開催し、地域が多職種に対して高齢者糖尿病に関する知見等を提供

⑤高齢者の特性に配慮した医療 **評価B**

重点医療のほか、**高齢者特有の疾患に対応した専門医療を提供**するとともに、地域の医療機関との連携を推進

【主な取組】

- ・高齢者に多い疾患である白内障手術や、加齢黄斑変性等に対する抗VEGF薬硝子体内注射など積極的に治療介入
- ・白内障手術件数 **1,593**件
- ・抗VEGF薬硝子体内注射件数 **439**件
- ・患者の早期退院に向けて、地域の医療機関や地域包括支援センター等との連携を強化

2. 地域における公的医療機関としての取組

①救急医療

評価B

CCUネットワーク、急性大動脈スーパーネットワーク、東京都脳卒中救急搬送体制を中心として、**脳・心血管疾患患者を積極的に受入れ**

【主な取組】

- ・24時間365日のオンコール体制を維持し、夜間も緊急手術体制を維持 救急患者受入数 8,612人 (令和4年度 10,336人)
- ・CCUネットワーク受入件数 105件 (令和4年度 132件)
- ・急性大動脈スーパーネットワーク受入件数 23件 (令和4年度 22件)
- ・SCUを増床し、急性期脳卒中患者に対し適切な医療を提供 SCU稼働率95.0% (令和4年度 93.9%)
- ・東京ルール搬送患者受入数 166件 (令和4年度 291件)
- ・救急救命士を2名採用して自院救急車の運用を開始、脳卒中の患者を中心に近隣医療機関から当センターへの緊急搬送を実施



【自院救急車】

②地域連携の推進

評価B

地域医療機関等からの紹介受入・逆紹介の強化等、**地域と連携した医療体制の整備**を推進

【主な取組】

- ・紹介率 78.1% (令和4年度 72.0%)、逆紹介率 107.9% (令和4年度 88.9%) などの実績や、地域連携の成果により、3月に「**地域医療支援病院**」に承認
- ・板橋区医師会連携会議や、板橋区医師会・豊島病院との三者合同懇親会を開催し、一層の連携強化を推進
- ・引き続き、C@RNAシステムの利用を推進するとともに、上部内視鏡検査予約の運用を開始



【板橋区医師会連携会議】

③災害・感染症等の緊急事態への対応

評価S

- ・令和6年1月に発生した能登半島地震に際し、自治体病院協議会を通じて、看護師延べ11名を被災した医療機関に迅速に派遣
- ・新型コロナウイルス5類移行後もコロナ専用病棟を1病棟確保し、認知症合併例など高齢者の複雑例を多数受け入れ
- ・板橋区、板橋区医師会、板橋区薬剤師会と合同で大規模災害訓練を実施



【被災地での看護業務】

3. 安心かつ信頼できる質の高い医療提供体制の確保

安全で質の高い医療の提供

評価B

医療安全、感染防止対策を一層強化するとともに、医療の質の確保に向けた取組強化

【主な取組】

- ・インシデント・アクシデントレポートを活用するとともに、医療安全対策室の積極的な取組により、医療安全管理を推進
- ・離床センサー類を効果的に使用するために、定期点検及び管理を強化したことにより、転倒・転落発生率は前年と同様の水準を維持。また、それに起因する骨折の発生は前年度を下回った。骨折件数：8件 (令和4年度 13件)
- ・看護師の血管診療に有用な資格取得を促進し、弾性ストッキングコンダクターを4名育成

患者中心の医療の実践・患者サービスの向上

評価B

ご意見箱や患者満足度調査の結果等を踏まえた取組を推進し、**患者・家族に寄り添う医療を提供**

【主な取組】

- ・患者衣やタオルのセットレンタルへの日用品の付帯や、おむつのセットレンタルの継続により、患者や患者家族へのサービスの向上、更には看護師への負担軽減を実現
- ・渋谷記念コーナーや外来案内におけるボランティア活動再開に向け、新型コロナ感染症以前に活動していたスタッフに呼びかけるとともに、新規募集に関してホームページに掲載



【入院セット】

地域医療

医療の質

患者サービス

① 高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究 評価S

高齢期に必要な栄養、がんの治療、記憶形成に必要な活性酸素など、老化制御や健康維持等に関わる研究を推進し、老年疾患・老年症候群の克服に向けて取り組んだ

【主な取組】

- ・ **高齢期にむけた健康維持に最適な食事のタンパク質比率は、25～35%であることを明らかにした**（図1）

《掲載誌》国際科学雑誌「GeroScience(インパクトファクター:7.581)」

《英文表題》 Moderate protein intake percentage in mice for maintaining metabolic health during approach to old age

- ・ **ホルモン療法が効かなくなった前立腺がんや乳がんに対する新しい治療薬としてRNAを標的とした新たな候補分子を発見した**(図2)

《掲載誌》米国科学アカデミー発行の国際科学雑誌「PNAS nexus(参考、PNASインパクトファクター:11.1)」

《英文表題》 Identification of small-molecule inhibitors against the interaction of RNA-binding protein PSF and its target RNA for cancer treatment

- ・ **悪玉因子と思われていた活性酸素が脳の記憶形成に必要であることを解明した**

《掲載誌》国際英文誌「Redox Biology (インパクトファクター:11.4)」

《英文表題》 Essential Role of ROS - 8-nitro-cGMP signaling in long-term memory of motor learning and cerebellar synaptic plasticity

② 高齢者の地域での生活を支える研究 評価A

高齢者を支える地域づくりに向けて、**社会参加の促進や地域における高齢者支援等に関わる研究を推進**

【主な取組】

- ・ **「後期高齢者の質問票」（15項目）に含まれる「フレイル関連12項目」について、健康リスクがあると考えられる回答が4項目以上あるとフレイルの可能性のあることを明らかにした**（図3）

《掲載誌》「Geriatrics & Gerontology International(インパクトファクター:3.3)」

《英文表題》 Criterion validity of the health assessment questionnaire for the national screening program for older adults in Japan: the SONIC study

- ・ **全国調査により、独居高齢者は同居者より抑うつ傾向が高いが、都市部ほど、また最近の調査ほど両者の差は小さいことがわかった**

《掲載誌》国際科学雑誌「Journal of Gerontology Series B (インパクトファクター:6.2)」

《英文表題》 Living alone and depressive symptoms among older Japanese: Do urbanization and time period matter?

- ・ **高齢者の就労的活動で支える～フレイル予防・介護予防を目的とした「通いの場」の有効性を明らかにした**

《掲載誌》「Preventive Medicine (インパクトファクター:4.6)」

《英文表題》 Effects of community-based frailty-preventing intervention on all-cause and cause-specific functional disability in older adults living in rural Japan: A propensity score analysis

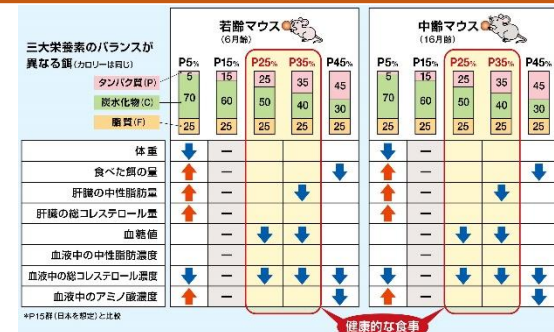


図1 【若齢および中齢のマウスにタンパク質比率が25%または35%の食餌を与えると、15%（日本の平均）に比べて肝臓の中性脂肪量や血糖値、血液中の脂質濃度が抑制された。】

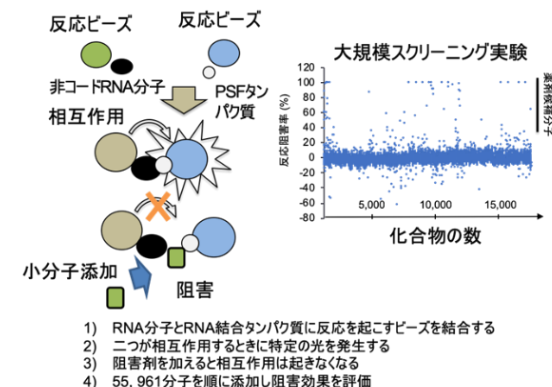


図2 【RNAとRNA結合タンパク質PSFの結合を阻害するスクリーニング実験】

類別	No.	質問文	回答
健康状態	1	あなたの現在の健康状態はいかがですか	①「よい」②「まあよい」③「ふつう」④「あまりよくない」⑤「悪い」
心の健康状態	2	毎日の生活に満足していますか	①「満足」②「やや満足」③「やや不満」④「不満」
食習慣	3	1日3食きちんと食べていますか	①「はい」②「いいえ」
口腔機能	4	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	①「はい」②「いいえ」
	5	お茶や汁物等でむせることがありますか	①「はい」②「いいえ」
体重変化	6	6カ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	①「はい」②「いいえ」
運動・転倒	7	以前に比べて歩く速度が遅くなったと思いますか	①「はい」②「いいえ」
	8	この1年間に転んだことがありますか	①「はい」②「いいえ」
	9	ウォーキング等の運動を週に1回以上していますか	①「はい」②「いいえ」
認知機能	10	周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるとされていますか	①「はい」②「いいえ」
	11	今日が何月何日かわからない時がありますか	①「はい」②「いいえ」
喫煙	12	あなたはたばこを吸いますか	①「吸っている」②「やめた」③「吸っていない」
社会参加	13	週に1回以上は外出していますか	①「はい」②「いいえ」
	14	ふだんから家族や友人と付き合いがありますか	①「はい」②「いいえ」
ソーシャルサポート	15	体調が悪いときに、身近に相談できる人がいますか	①「はい」②「いいえ」

図3 【後期高齢者の質問票（黄色の質問は「フレイル関連12項目」、回答の灰色部分は「健康リスクあり」と考えられる回答）】

③老年学研究におけるリーダーシップの発揮 評価S

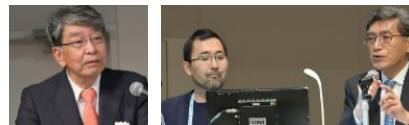
国内外の研究機関と連携した次世代医用技術の推進等、**世界における老年学研究の拠点としてリーダーシップを発揮**

【主な取組】

- ・第12回アジア/オセアニア国際老年学会議を主催（会長）
- ・国内外から1,730名の研究者、1200演題（内、健康長寿が200題の演題）

連日活発な意見交換が行われた

・科学研究費等への積極的な応募、さらに適切に企業等の受託研究や共同研究を推進することにより、**多額の外部研究費を獲得**【科研費新規採択率：43.2%（全国3位）（令和4年度 47.6%）
外部資金獲得金額：1,028,481千円（令和4年度 1,131,140千円）】



【第12回アジア/オセアニア国際老年学会議】

④研究成果の社会への還元 評価A

当センター病院部門の臨床試験、および研究部門の老年学研究を推進していくため、健康長寿イノベーションセンター（HAIC）を中心に**研究を支援する専門人材の育成**を進め、当センターだけでなく**外部研究機関や企業等の共同研究開発を積極的に推進**

【主な取組】

- ・医療と研究が一体となった取組トランスレーショナル・リサーチの推進として、令和3年度からの**継続課題1件を支援**（①「顔で認知症をスクリーニングする安定したAIモデルの開発」、令和5年度からの**新規課題4件を支援**（①「レビー小体病早期診断における脳脊髄液RT-QUIC法の実証研究」②「高齢者急性骨髄性白血病に対するギルテリチニブフマル酸塩による移植前化学療法併用による同種造血幹細胞移植後の再発予防効果の検証」③「非結核性抗酸菌M.lentiflavumの病原性に関与する因子の迅速診断法の開発」④「新薬開発に資する簡便かつ定量的なGABA計測技術の創出」
- ・治験審査委員会（IRB）、認定臨床研究審査委員会（CRB）などの委員会を運営し、当センターで実施している**研究の質や安全性を確保**し、臨床研究法のCRBでは都立病院機構の臨床研究の審査・管理を実施し、再生医療安全確保法のCRBでも新規に1件審査・管理を開始した

令和5年度の主な実績（医療と研究）～法人の資源を活用した政策課題への対応～



法人の資源を活用した政策課題への対応

①介護予防・フレイル予防の取組 評価A

介護予防・フレイル予防に取り組む区市町村への支援や人材育成等、**地域における介護予防・フレイル予防支援体制の構築**に貢献

【主な取組】

- ・区市町村・地域包括支援センター職員に対する研修として、「総論編」1回+オンデマンド、実践編Ⅰ：地域づくりによる介護予防研修4回、実践編Ⅱ：多様性・機能強化研修6回、介護予防・フレイル予防推進員研修4回に加え、自治体の進捗報告の場として実践報告会を2回実施し、**計1,190名**が受講（R4：計965名）
- ・通いの場への予防プログラム「ちょい足しプログラム」のモデル事業を荒川区・豊島区で実施し、都内11自治体に展開
- ・板橋区医師会にてフレイルサポート医研修を実施し、医師29人が参加
- ・フレイルサポート栄養士研修会を実施し、27名が受講。また症例検討会を実施し、19名がフレイルサポート栄養士に認定

②認知症との共生・予防の取組 評価A

医療従事者等の認知症対応力向上支援やIRIDEの活動を通して、**地域における認知症支援体制の構築**に貢献

【主な取組】

- ・島しょ部を含む東京都全域を対象地域として、**認知症医療・ケアに携わる専門職の育成**を目的とした研修会の企画運営を実施（実施回数：16回（令和4年度：16回））



①TOKYO健康長寿データベースの構築

- ・データベースを活用した産学連携での共同研究を複数開始
- ・令和5年度末時点で、メディカルバイオバンク登録数が1,218件、検体保管数は血清・血漿など20,000サンプルを蓄積

②メディカルゲノムセンター

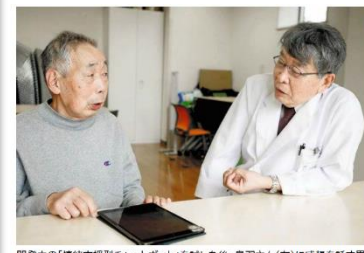
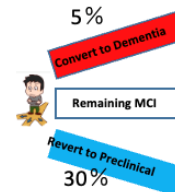
- ・TOKYOメディカルバイオバンクを整備し、未来型研究開発に対応した生体試料の蓄積を推進
- ・バイオマーカー開発に必要な体液検体の蓄積を続け、サンプル計測を伴う体液バイオマーカー候補を探した
- ・コホートの検体を含めて血漿バイオマーカーの測定を完了

③AI診断

- ・AIによるMRI診断支援システムでは、微小脳出血診断実用システムは完成に近づいたため、社会実装に向けて調整中
- ・Fazekas分類診断のアルゴリズム開発を進めた。また、共同開発したアミロイドPET読影支援ソフトは誤判定防止機能を追加
- ・チャットボット開発においては、上位の言語モデルを採用し、さらに自然な会話となってきた。プロトタイプはほぼ完成し、実証実験を開始するための計画を作成

④地域コホート・共生社会創生

- ・板橋コホートと愛知コホート（国立長寿）で、1000名以上の軽度認知障害（MCI）の改善因子を明らかにする本邦最大の前向き研究（DEMCIRC）を推進。早期発見のバイオマーカーの検定、共生の新しい試み「ここからステーション」で社会資源の利活用（Social Resources Repositioning）を提唱実践。



開発中の「情緒支援型チャットボット」を試した後、島田さん(右)に感想を話す男性(東京都健康長寿医療センターで)「家外、楽しいものだ」



①フレイル診療ネットワーク構築とフレイル外来の機能強化

- ・フレイル外来に1年間で 923名の患者が受診し、フレイル評価を実施
- ・フレイル外来におけるフレイルに関する研究論文を国際誌に10編発表

②フレイルサポート医の育成

- ・フレイルサポート医研修を実施し、18名がフレイルサポート医として新たに認定。研修プログラムとして多職種（医師・看護師・栄養士、薬剤師、PT、OT等）によるワークショップ開催
- ・オンラインによるフレイル予防普及啓発を行い約600名が参加

③フレイルをサポートするコメディカルの育成

- ・東京都栄養士会との連携により、フレイルサポート栄養士研修を実施し、27名が受講（うち19名がフレイルサポート栄養士として認定）。また、アドバンスコースとしてフレイルサポート専門栄養士研修会をオンラインにて実施し56名が参加
- ・フレイルサポートナース研修会を実施し、9名が参加



【多職種によるワークショップ】

スマートウォッチ等デジタル機器活用事業

- ・ウェアラブルデバイスを用いて地域在住高齢者（板橋区・千代田区）及び当センターフレイル外来通院患者等から収集したライフログ情報（歩行、活動量、睡眠状態、脈拍、会話時間等）の検証
- ・令和5年度のコホート調査の結果から縦断的にフレイル状態との関連を検証
- ・上記知見を健康増進アプリケーション開発に反映させるほか、スタートアップ企業によるゲーミング機能を構築中



【ウェアラブルデバイスによる収集データ】

1. 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成

人材育成

① 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成 **評価A**

健康長寿医療研修センターが中心となり、**医療・介護人材の育成に向け組織的かつ効率的に対応を支援**

【主な取組】

- ・東京都医師会や東京栄養士会等と連携し、フレイルサポート医及びフレイルサポート栄養士研修を実施
- ・認知症高齢者を地域で支える医療従事者等に対して、認知症対応力向上に向けた研修を実施

【フレイルサポート医研修の様子】



2. 業務運営の改善及び効率化に関する事項

業務運営

① 地方独立行政法人の特性を活かした業務改善・効率化 **評価B**

業務改善や効率化に取り組むほか、組織体制の強化を推進するとともに、センターの各種取組・成果を広く普及・還元

【主な取組】

- ・新たに勤怠管理システムを導入し、職員の勤務状況を可視化して所属長による把握を推進
- ・医師の働き方改革に向け、看護師や事務等へのタスクシフト／シェアを推進
- ・レカネマップ投与に関する周知をホームページ等で積極的に広報し、患者獲得に繋げた

② 適正な法人運営を行うための体制強化 **評価B**

外部からの意見を取り入れ、**センター運営の透明性・健全性を確保**

【主な取組】

- ・全職員を対象とした悉皆研修のコンプライアンス研修を開催し、275人の職員が受講
- ・研究に関する不正防止の意識の浸透とルールの習熟を図るため、研究不正防止研修会や研究倫理教育（e-ラーニング）を実施（研修参加率100%）

3. 財務内容の改善に関する事項 **評価B**

財務改善

① 収入確保

ポストコロナを見据え、**積極的に医業収益を確保**

【主な取組】

- ・紹介患者に対する医療提供、救急医療等によるかかりつけ医への支援の実績により、令和6年3月に「地域医療支援病院」に承認
- ・医療と研究の一体的な推進によるメリットを生かし、外部研究資金の積極的な獲得に努めるとともに、成果の実用化や臨床応用に活用
(科研費新規採択率 43.2% (全国3位))

② コスト管理の体制強化

物価高騰などに適切に対応しつつ、**一層のコストの削減を推進**

【主な取組】

- ・経営戦略会議において、月次の経営実績報告のほか、各診療科別収支の対前年比較及び増減理由、各科収益力などを分析・報告するほか、各診療科の入外収益の経年推移や原価計算結果に基づきヒアリングを実施、センター内での課題の共有と改善によるコスト削減を実施

4. 法人運営におけるリスク管理の強化

法人運営

① 法人運営におけるリスク管理の強化 **評価B**

想定されるリスクの分析及び評価を行うとともに、理事長をトップとしたセンター全体の**リスクマネジメント体制を適切に運用**

【主な取組】

- ・サイバー攻撃による被害防止に備え、情報システムに係る特定システムベンダーに対してセキュリティ監査を行い、不適事項の改善を指示
- ・外部の弁護士が相談を受け付けるハラスメント相談窓口を設置するとともに、ハラスメント防止にかかる普及啓発のメールを送信するなど、職員が働きやすい職場環境を構築

参考資料：令和5年度の主な数値実績①（病院部門）



表1

入院患者数と入院単価の推移

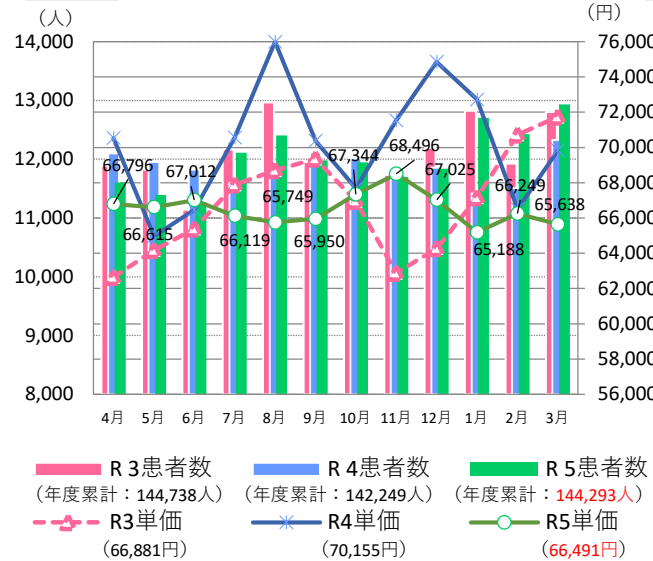


表2

外来患者数と外来単価の推移

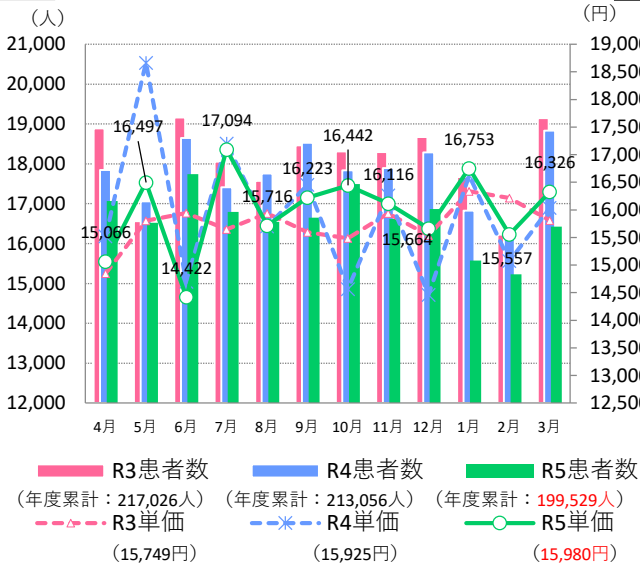


表3

医業収益及び医業費用について

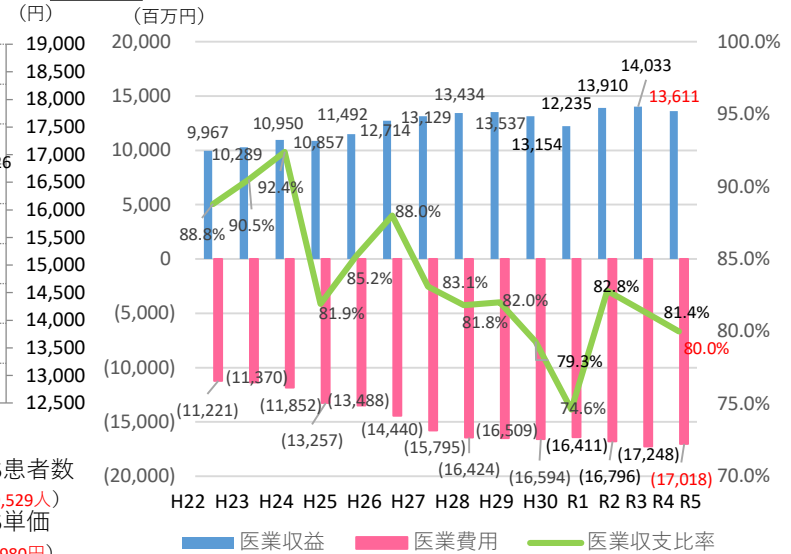


表4

病床利用率の推移

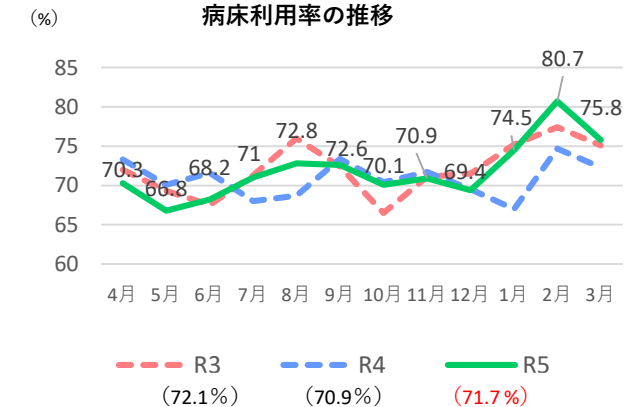


表5

平均在院日数の推移 ※病院全体

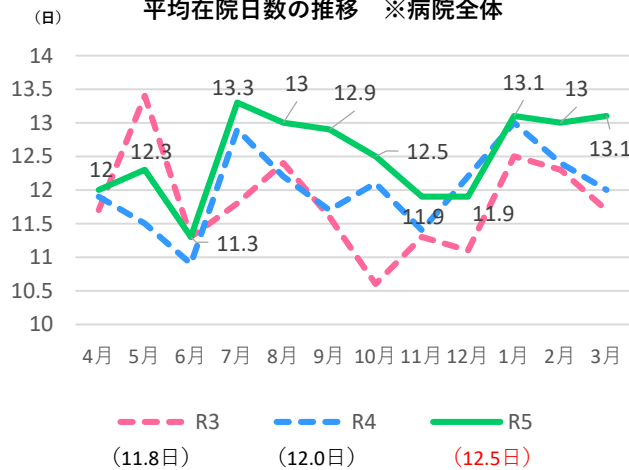


表6

救急患者総数

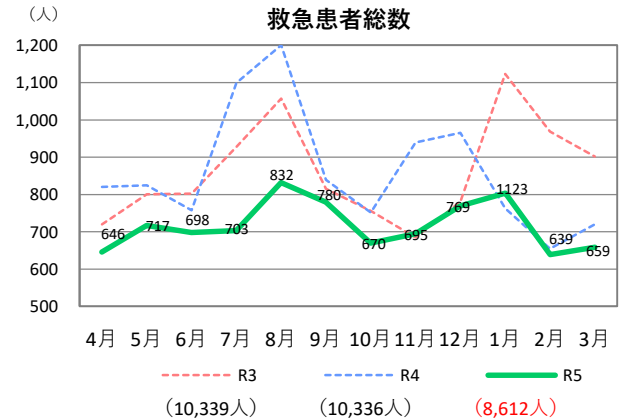




表7

学会・論文発表件数

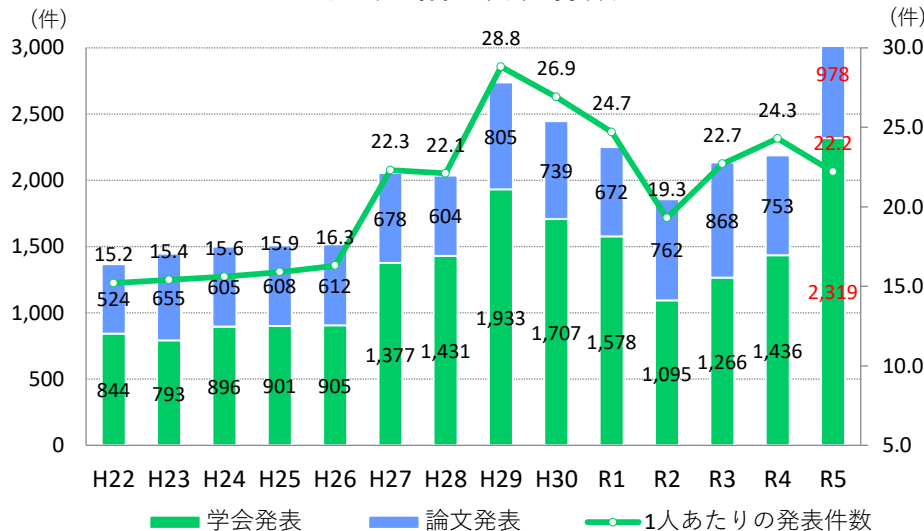


表8

外部資金獲得額

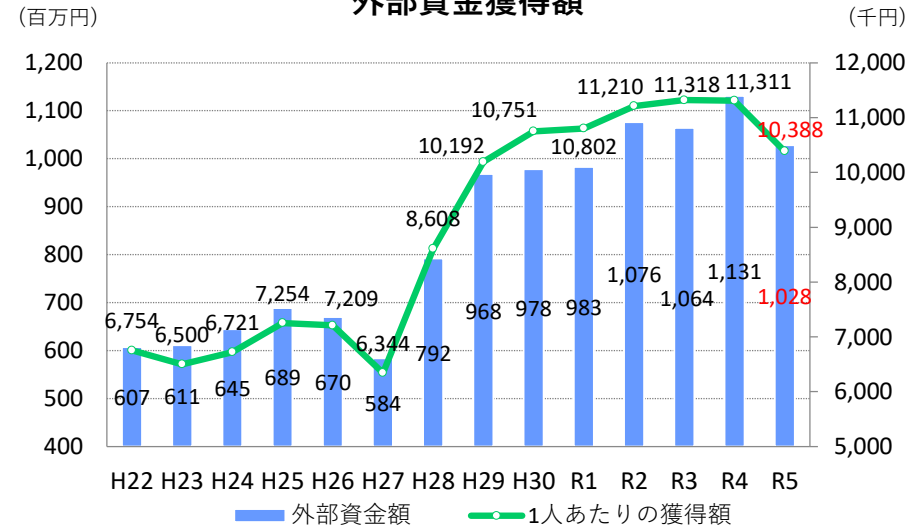


表9

科学研究費等獲得額・件数

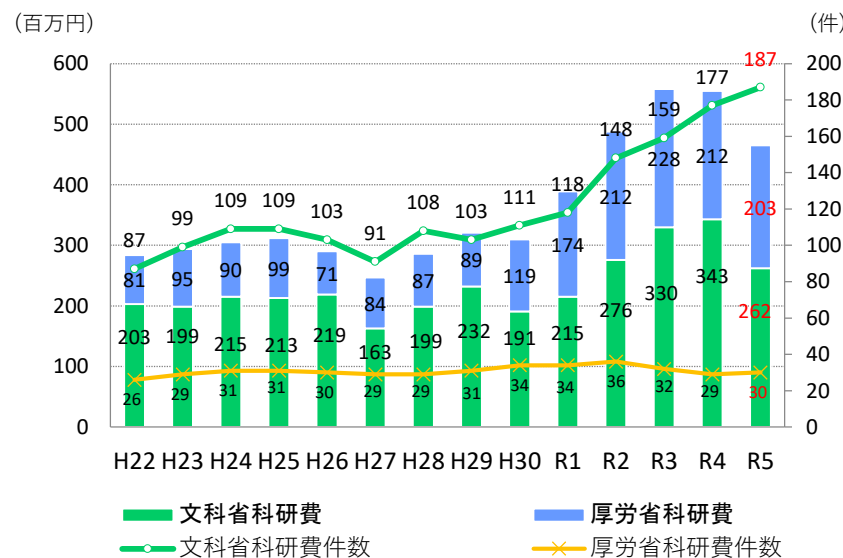


表10

受託研究等の受入金額

